

第44回全国精神保健福祉センター研究協議会開催プログラム

会場：福岡国際会議場
福岡市博多区石城町2-1

第1日目 平成20年11月4日(火)

○ 全国精神保健福祉センター長会理事会

10:30~11:00	理事会受付	405会議室
11:00~12:00	全国精神保健福祉センター長会理事会	

○ 全国精神保健福祉センター長会会議

12:30~13:00	センター長会受付	502・503会議室
13:00~14:45	全国精神保健福祉センター長会会議	

○ 全国精神保健福祉センター研究協議会

12:30~14:40	研究協議会受付	502・503会議室
14:55~15:05	全国精神保健福祉センター研究協議会 開会式	
15:10~17:00	講演 「精神保健福祉行政の動向」 厚生労働省 精神・障害保健課長 福島 靖正 氏	
	講演 「傷ついた治療者のこと」 九州大学大学院人間環境学研究院教授 北山 修 氏	

○意見交換会

18:00~19:30	意見交換会	1F レストラン
-------------	-------	----------

第2日目 平成20年11月5日(水)

○ 全国精神保健福祉センター研究協議会

8:30~8:50	研究協議会受付	502・503会議室
8:50~12:55	一般演題1~4	
12:55~13:35	休憩	
13:35~15:35	一般演題5~6	
15:40~15:50	全国精神保健福祉センター研究協議会 閉会式	

講 演

精神保健福祉行政の動向

厚生労働省 精神・障害保健課長 福島 靖正 氏

講 演

傷ついた治療者のこと

九州大学大学院人間環境学研究院教授 北山 修 氏

第44回全国精神保健福祉センター研究協議会

一般演題発表プログラム

平成20年11月5日（水）

8:50～15:35

一般演題発表プログラム

1 演題につき7分以内

一般演題 1 8:50~9:40

座長：仲本 晴男（沖縄県立総合精神保健福祉センター所長）

No.	演題名	誌上	所属名	発表者名	頁
1	退院支援事業における退院支援コーディネーターと保健所の役割を考える		長野県精神保健福祉センター	小泉 典章	12
2	医療観察法制度における精神保健福祉センター宿泊訓練科の役割 ～対象者の入所訓練を通して～		都立中部総合精神保健福祉センター リハビリテーション部宿泊訓練科	児玉佳代子	14
3	審査会活動における精神保健福祉士の役割と課題 ～事務局及び有識者委員（精神保健福祉士）全国調査を中心に～		千葉県精神保健福祉センター	四方田 清	16
4	川崎市における地域リハビリテーションシステムの展開 ～精神保健福祉センター（分室機能）設置の意義と目的について～		川崎市北部リハビリテーションセンター 百合丘障害者センター	原島 淳	18
5	5機関統合で何が変わったか？ ～相談事例への対応からそのメリットについて検討する～		長崎こども・女性・障害者支援センター	大塚 俊弘	20
質疑及び座長まとめ（15分程度）					

一般演題 2 9:50~10:45

座長：富永 秀文（鹿児島県精神保健福祉センター所長）

No.	演題名	誌上	所属名	発表者名	頁
6	認知行動療法（CBT）を中心としたうつ病ケアの有効性 ～慢性うつ病に対する就労支援の実践～		沖縄県立総合精神保健福祉センター	仲本 晴男	24
7	認知行動療法を取り入れたうつ病ケアの試み		広島県立総合精神保健福祉センター	岡田 幸枝	26
8	鳥取県における職員に対するメンタルヘルス対策と復職支援 ～メンタルヘルス対策の8年間の経過と復職リハビリ・復職支援制度～		鳥取県立精神保健福祉センター	原田 豊	28
9	勤労者のメンタルヘルス向上へのアプローチ(第二報) ～民間モデル事業所2社2年間の取り組みから～		仙台市精神保健福祉総合センター	板橋 文絵	30
10	教職員のメンタルヘルス実態調査報告		浜松市精神保健福祉センター	高林 智子	32
11	静岡県におけるうつ自殺予防対策モデル事業の展開 ～「紹介システム」から「睡眠キャンペーン」へ～		静岡県精神保健福祉センター	市原 眞記	34
質疑及び座長まとめ（15分程度）					

一般演題 3 10:55~11:50

座長：西浦 研志（福岡市精神保健福祉センター所長）

No.	演題名	誌上	所属名	発表者名	頁
12	自死遺族支援における地域連携システム ～検案医師との協働による新たな取り組み～		滋賀県立精神保健福祉センター	楢本まどか	38
13	都市部における自殺対策事業の取り組み ～地域自殺対策推進事業 神奈川県大和市モデル地区事業の考察～		神奈川県精神保健福祉センター	大竹三千代	40
14	静岡市こころの健康センターで対応した自殺者遺族の実態と今後課題		静岡市こころの健康センター	寺田 倫	42
15	自死遺族支援の基盤づくりについて ～複数の自死遺族支援団体との連携を通して～		兵庫県精神保健福祉センター	田中 友巳	44
16	福岡市精神保健福祉センターにおける高次脳機能障がい者の就業プログラムについて		福岡市精神保健福祉センター	中野 聡美	46
17	「ものわずれ外来」事業の取り組み ～認知症の早期発見・早期対応を目指して～		北九州市立精神保健福祉センター	田村 篤子	48
質疑及び座長まとめ（15分程度）					

一般演題 4 12:00~12:55

座長：大隈 紘子（大分県精神保健福祉センター所長）

No.	演 題 名	誌上	所 属 名	発表者名	頁
18	広汎性発達障害の成人グループにおけるコミュニケーション・トレーニングプログラムの試み		都立精神保健福祉センター	野津いなみ	52
19	青年期・成人期広汎性発達障害者への支援のあり方について ～成人期グループワークを実施して～		愛媛県心と体の健康センター	成松 順子	54
20	地域保健における成人期広汎性発達障害者ケアの取り組み		長野県精神保健福祉センター	山本 京子	56
21	広汎性発達障害を背景とする思春期・青年期ひきこもり事例に対する相談・面接の留意点について		山梨県立精神保健福祉センター	萩原 和子	58
22	宮城県精神保健福祉センターにおける思春期・青年期ケアの意義		宮城県精神保健福祉センター	小松 純子	60
23	さいたま市こころの健康センター・子どもの精神保健相談室の活動報告		さいたま市こころの健康センター	井上 亮子	62
24	青年期の特に高機能広汎性発達障害のある人々への支援メニュー	○	札幌市精神保健福祉センター	中野 育子	64
25	川崎市における「社会的ひきこもり相談の現状と課題」	○	川崎市精神保健福祉センター	山田 友悟	66
質疑及び座長まとめ (15分程度)					
昼食・休憩 12:55~13:35					

一般演題 5 13:35~14:30

座長：中島 央（熊本県精神保健福祉センター所長）

No.	演 題 名	誌上	所 属 名	発表者名	頁
26	群馬県精神科救急情報センターのアウトリーチ活動の実態 ～訪問対象者の構成と活動結果の検討～		群馬県こころの健康センター・精神科救急情報センター	赤田卓志朗	70
27	群馬県の精神保健福祉法第26条通報における調査の実際と効果		群馬県こころの健康センター・精神科救急情報センター	向田 律子	72
28	中越大地震被災者IES-R（改訂版出来事インパクト尺度）高値の関連要因について		新潟県精神保健福祉センター	阿部 俊幸	74
29	京都市における社会的ひきこもり支援とその連携について		京都市こころの健康増進センター	村本 智美	76
30	鳥取県における社会的ひきこもりの現状と社会参加促進ステップアップ事業の取り組みについて		鳥取県立精神保健福祉センター	川口 栄	78
31	ひきこもり家族への心理教育 ～グループワークの効果と家族の変化～		さいたま市こころの健康センター	永井めぐみ	80
32	ひきこもりへの支援—この10年の取り組みから—	○	大阪府こころの健康総合センター	上野 千佳	82
33	CRTの標準化について（誌上发表）	○	山口県精神保健福祉センター	河野 通英	84
質疑及び座長まとめ (15分程度)					

一般演題 6 14:40~15:35

座長：大塚 俊弘（長崎県こども・女性・障害者支援センター所長）

No.	演 題 名	誌上	所 属 名	発表者名	頁
34	高知県における薬物依存等の家族支援プログラムを実施して ～薬物依存等家族支援プログラムの計画的継続的実践を目指して～		高知県立精神保健福祉センター	田内 佳子	88
35	相談業務プロセスの見直し ～『リスナー』の力とともに～		三重県こころの健康センター	江場加奈子	90
36	電子メールによるこころの健康相談の可能性 —北海道の経験から—		北海道立精神保健福祉センター	鹿野なほみ	92
37	障害者自立支援法第22条第2項にもとづく、障害福祉サービスに対する意見について		札幌市精神保健福祉センター	橋本 省吾	94
38	アルコール問題啓発パンフレット作成の試み ～多量飲酒への「気づき」を目指して～		三重県こころの健康センター	岡村 広志	96
39	病的ギャンブリングの概念整理について —今後の新たな展開を目指して—		横浜市こころの健康相談センター	佐藤 拓	98
40	ギャンブル依存症の現状と対策に関する一考察 ～大分県精神保健福祉センター来所相談事例の分析から～	○	大分県精神保健福祉センター	大隈 紘子	100
質疑及び座長まとめ (15分程度)					

注 誌上の欄における○印については、誌上发表のみ